

中部の

エネルギーを築いた人々

福沢桃介生誕150年記念⑧

島根県浜田市にある福沢桃介頌徳碑

～一の瀬発電所と農業用水～

山陰地方の西部にある島根県は出雲地方、石見地方、隠岐地方の3地域に区分される。このうち石見地方の中央部にある浜田市は浜田藩の城下町として政治、経済、文化、交通などの中心都市として発達してきた。

島根県内の主な電気事業社は明治時代から大正時代にかけて松江電灯株式会社(設立:1895(明治28年)、資本金:35,000円)を皮切りに8社が設立された。次いで浜田電気株式会社(設立:1911(明治44)年、資本金:150,000円)が設立され、福沢桃介が取締役社長に就任し、1916(大正5)年に辞任した。

今月号は福沢桃介が就任していた浜田電気時代の活躍を紹介する。



福沢桃介翁石像

1868(明治元)～1938(昭和13)年
「福沢桃介君」と刻まれた石像

島根県内の電気事業会社

島根県内には電灯・電力供給事業会社として資料1(島根県の電気事業会社)の通り8社あった。ここでは主な電気事業会社3社の松江電灯株式会社、浜田電気株式会社、出雲電気株式会社の動きについて説明する。

①松江電灯株式会社

島根県で最初の電気事業である松江電灯株式会社が1895(明治28)年に資本金35,000円で設立され、松江城下の殿町に発電所(出力:34kW)を建設し、松江市一円を供給区域として地元の桑原羊二郎が社長に就任した。

②浜田電気株式会社

松江電灯に次いで浜田電気が1911(明治44)年に資本金15万円で設立され、一の瀬発電所を建設し営業を開始した。これ以降については次の章で説明する。

③出雲電気株式会社

島根県下3番目の電気事業として神戸川の

水利権を出願し出雲電気株式会社が明治44年に設立され、才賀藤吉が取締役社長に就任した。

才賀藤吉のビジネスは地方に電気事業会社を設立しその会社の責任者となった。そして才賀電機商工会が工事を請負い、資材を購入し、技術者を送り込んで技術指導をする。企業が軌道に乗ったところで所有株式を地元に売却するという方式で各地の電気会社や鉄道会社の経営に参画した。しかし、才賀電機商工会の経営が1912(大正元)年に破たん、大正3年に社長を辞任した。

その後、松江電灯と出雲電気は電力市場が近いこと、水力発電設備の調整など両社合併によるメリットが大きいことなどがあり、1917(大正6)年に対等合併した。そして、出雲電気が両社の設備、供給区域などを継承して、本社は松江市(旧松江電灯本社)に置き、

取締役社長に松江電灯社長だった織原万次郎が新社長に就任した。

その後、出雲電気は1942(昭和17)年の配電統合に至るまでに合併を重ね、電気事業として活発な事業活動を展開し中国配電、中国電力に継承された。

資料1 島根県の電気事業者

会社名	設立年月	合併年月
松江電灯	1895(明治28)年4月	1917(大正6)年：出雲電気と合併
出雲電気	1911(明治44)年11月	
浜田電気	1911(明治44)年5月	1922(大正11)年9月：出雲電気と合併
益田電気	1912(明治45)年1月	1922(大正11)年1月：浜田電気と合併
温泉津電気	1915(大正4)年7月	1922(大正11)年9月：出雲電気と合併
美保関電気	1913(大正2)年11月	1929(昭和4)年1月：出雲電気と合併
石見水力電気	1914(大正3)年5月	1927(昭和2)年12月：出雲電気と合併
匹見川水力工業	1928(昭和3)年7月	1934(昭和9)年5月：出雲電気と合併

1917年(大正8年) 合併時：松江電灯：100万円+30万円(無償増資) 出雲電気：35万円

浜田電気株式会社の沿革

浜田市内を流れる主な川は周布川、浜田川などがある。周布川は島根・広島県境の弥畝山(標高：961m)付近に発し、急峻な山間部を流れながら周布川ダム→周布川第一発電所→大長見ダム(紅葉湖)→長見ダム→周布川第二発電所を経て日本海にそそぐ約45kmの2級河川である。

浜田電気は周布川の水利権を得て1912(明治45)年、当時の島根県那賀郡弥栄村大字栃木に一之瀬発電所(出力：250kW)を建設し開業した。その後、需要は着実に拡大し、1918(大正7)年に益田電気株式会社と合併した。さらに1920(大正9)年に周布川第二発電所建設資金調達のため増資を行い資本金120万円となり、1922(大正11)年9月に周布川第二発電所(出力：400kW)を建設した。その間、一之瀬発電所は第一周布川発電所

(参考) 島根県の概略図



に改称し、1926(大正15)年に500kWに増設した。

その後、1922(大正11)年11月に電力集中化を背景に島根県知事が合併の勧告を行い出雲電気と合併し解散した。

周布川水系の電源開発

中国電力は1957(昭和32)年に周布川開発計画を立案し、浜田市に調査所を開設し、電

源開発を実施することになった。

周布川第一発電所と第二発電所は一貫工事

として1960(昭和35)年に着工、翌年にそれぞれ稼働を始めた。これら新発電所の運転開始とともに、既設の第一周布川、第二周布川発電所は廃止された。

(1) 周布川第一発電所

浜田市弥栄町に高さ58mの周布川ダム(コンクリート重力ダム)を造り、貯水池を設け延長4,258mの圧力導水路により周布川第一発電所(出力:9,800kW)で発電したのち周布川に放水する。

(2) 周布川第二発電所

周布川第一発電所との一貫計画として、第

一発電所との下流約1kmの浜田市長見に高さ22mの長見ダム(コンクリート重力ダム)を造り、調整池を設け延長3,034mの無圧導水路により周布川第二発電所(出力:4,700kW)で発電したのち周布川に放流する。

(3) 大長見ダム

島根県が1997(平成9)年に上水道や洪水調節など多目的ダムとして、周布川ダムと長見ダムの間に、高さ71.5mの大長見ダム(重力式コンクリート)を建設した。ダム湖は紅葉湖と呼ばれる。

福沢桃介頌徳碑と福沢桃介像の建立

福沢桃介は1916(大正5)年に浜田電気の社長辞任が決まると浜田電気関係者を中心に惜しむ声上がり、また地元の水利組合の人たちが呼応して記念事業を興し、1918(大正7)年に水力電気発祥の地、一の瀬地区の一の瀬公園の小高い丘に福沢桃介顕彰碑と福沢桃介像が建立された。

この顕彰碑は周布川の急流に磨かれた自然石を採集して積み重ねた基礎の上に「電」の文字を刻み込んだ石州瓦3枚が積んであり、石碑は縦3m、横1m、幅40cmの大きさである。



福沢桃介頌徳碑

(1) 顕彰碑の表面(原文のまま)には

「福沢桃介翁は明治元戊辰歳六月武蔵比企郡荒子村に生る翁は国富の増進は天恵の水力を利用するにありとし全国各所に水力電気事業を興したり世人は呼て福沢電気王と謂う宣なる哉昭和3年其偉績天聴に達し勲3等に叙し旭日中綬章を賜う明治44年翁は浜田電気株式会社を創立して社長に就任し水力発電所建設と共に一ノ瀬奥ヶ原の耕地に灌漑用水を供給せられ為荒蕪の地変して良田と化したり依て同志等皆謀り碑を此の地に建立して以て翁の徳を永久に頌す 昭和8年9月」とある。

(2) 裏面には

「護岸堤防工事新田原ひびが原奥が原延長450m

総工費 金1,000円 内訳 金750円 国庫補助
金250円 地元分担金

昭和7年12月27日着工 同8年3月22日竣工

村長 新井連吉 右側側面には45名の関係者氏名」が記されている。

(3) 左側面には

「創立当時関係者

明治44年入社 浜田電気会社専務取締役 東京市芝区白金町70 松下浅吉

一之瀬発電所電気主任技師

明治44年入社 大原郡大東町勲8等 矢壁吉右工門

一之瀬発電所水路係 明治44年入社 漁山村鍋石勲7等 河野仙汰」と読み取ることができる。

(4) 福沢桃介像

福沢桃介の石造の正面に「福沢桃介君」、右側面に「大正7年9月」と刻まれている。

紅葉の一の瀬集落にある福沢桃介頌徳碑を訪ねて

浜田駅からバスで日本海に注ぐ周布川をさかのぼること30分、周布川第二発電所をすぎると一の瀬バス停(一の瀬橋)に到着する。この辺りは古くから浜田の景勝地の一つとして知られる石南峡があり、奇石や清流など木々の織り成す渓谷美が続いている。

一の瀬橋から歩いて10分ほど山間の小高い丘に登ると一の瀬集落が見渡せる広場がある。頂上の広場は600㎡(東西20m×南北30m)位あり、地元の人は一の瀬公園と呼んでいる。

一の瀬公園の中央に水害や火災から守る顕彰宮の祠があり、その右から順に広場の四方に多くの記念碑が建立されている。



周布川一の瀬橋から上流の集落

(1) 竣工記念 周布川第一第二発電所(周布川発電所の碑)

周布川発電所竣工に合わせ記念碑が立てられた。

(表面) 竣工記念

周布川第一第二発電所

(裏面) ここ周布川の天与の地勢を利用して大正初年浜田電気株式会社が一ノ瀬発電所を設けて以来このエネルギーは地方産業の振興に大

きな役割を果たしてきたが産業の発展と技術の進歩に伴いこれらを飛躍発展せしめて新たに貯水池を有する二発電所を建設する事となり今その完成を見るに至り周布川の様相は一変された

周布川の電源開発に由緒深いこの地に碑を建て工事完成の記念とし先賢の偉業を讃えるとともに工事中絶大なる援助協力を与えられた関係諸賢の労を顕彰しあわせて工事中不幸にして殉職せられた13名の方々の冥福を祈る昭和36年11月」と刻まれている。



周布川第一第二発電所の竣工記念碑

(2) 一ノ瀬発電所碑

浜田電気によって最初に建設された一ノ瀬



1912(明治45)年に竣工した一之瀬発電所碑

発電所工事関係者の内容で

「明治44年6月起工

45年2月竣工

工事請負：電業社社主 中島平太郎

土木主任技師：山本 潔

助手：北野 建

土木長：西沢 篤吉

抗夫長：梅木 吉三郎」と読み取ることができる。

(3) 農道完成記念碑

一之瀬地区の長年の念願であった農業灌漑排水路を浜田市の新農業構造改善事業で平成3年4月に竣工（農道新設：267m、排水路改修629m）した記念碑である。



農道完成記念碑

(4) 石津平造翁顕彰碑

1961(昭和36)年に中国電力株式会社周布川第一・第二発電所が建設され、一之瀬発電所が廃止された。しかし地元には灌漑用水などに利用するため旧発電所の用水路が存在しており、住民はその恩恵を受けていたので、石津平造翁が用水路敷地の永久使用を承諾され、顕徳碑が立てられた。

碑には横文字で

(表面) 石津平造翁顕徳碑

昭和37年9月1日之建

(裏面)

「石津平造翁は旧浜田町牛市の人にして資性剛健郷土の発展に貢献する事甚大なり明治40年頃より浜田電気株式会社の創立に努力され今日の一之瀬部落の発展の基礎を築かる其後時代の発展に依り昭和36年周布川新発電所の建設に伴い一之瀬発電所の廃止と相成

るに及び当主正孝氏は祖父の遺志を継ぎ地元灌漑用水組合の要請に応じ旧発電所の用水路敷地の永久使用を承諾せらる

昭和37年9月1日 一之瀬灌漑用水組合」と記されている。



石津平造翁碑から一之瀬集落が見渡せる

(5) 福沢桃介顕徳碑——前述の通り。

(6) 小松原三治翁の碑

明治16年9月14日の生まれで、耕地整理副組合長兼堤防工事世話係を勤め一之瀬発展に功績があった人で昭和31年10月1日に建立された。



(7) 浜田市防災周知サイレン

(8) 福沢桃介像——前述の通り。

今回の足跡歩き巡りは、浜田市教育員会文化財課、浜田駅前の浜田市観光協会の皆様が親切に教えていただき、充実した調査ができましたこと厚くお礼申し上げます。

(寺澤 安正)